

# マ リ

## <2006年の注目すべきポイント>

2005年のRandgold社のLoulo金鉱山の誕生に続き、2006年においてはTabakoto鉱山の生産が開始された。以後、Syama鉱山の生産開始が控えており、マリの金生産は今後、さらに増加する見通しである。

### 1. 非鉄金属一般概況

1999年に鉱業法の改正が実施され、多くの外国資本を引付け、探鉱活動が活発に行われるようになった。この結果、金鉱山が相次いで誕生することとなり、2001年におけるMorila、Yatela鉱山、2005年においてはLoulo鉱山が、2006年にはTabakoto鉱山が、相次いで誕生した。2005年において、マリで探鉱を含む鉱業活動を実施している企業は15社を数える。現在、金鉱業は鉱業生産額全体の95%を占め、主要な外貨獲得源となり、綿花に次ぐマリの主要輸出品となっている。また、南アフリカ、ガーナに次いで、タンザニアと並び、アフリカ第3位(2005年)の金生産国となっている。

金鉱山の探鉱、開発は、南西のビリミアン系グリーンストーン帯、ブグニ、Kenieba、およびシカソの近くのマリ南部に焦点を合わせて行われている。

金以外では、ダイヤモンド、石こう、燐鉱及び岩塩等の鉱産物を産出しているものの、これらについては、主としてインフラの未整備のため十分に新規開発がなされていない状況である。

### 2. 鉱業政策の主な動き

鉱業法、税制などの2006年における主だった動き、変更はない。

なお、現在有効な関連法令、規制は、1999年に改定された鉱業法(Mining Code)に基づくものであり、主な内容は以下のとおり。

#### (1) 主な鉱業権

主な鉱業権としては、Reconnaissance Authorisation、Exploration Authorisation、Research permit、Exploitation permit等があり、複数ライセンス方式である。

#### ① 試掘許可(Research permit)

- ・ 鉱山大臣により交付

- ・ 有効期限：3年間、2回更新可(各3年間)、但し、更新時に面積を半分に減区する。
- ・ 面積：1区画最大150km<sup>2</sup>
- ・ 鉱区税：交付時：500,000CFA(=約100,000円) 更新時：500,000CFA。
- ・ 土地使用料：1,000CFA/km<sup>2</sup>/年(=200円/km<sup>2</sup>/年) 第1回更新 1,500CFA/km<sup>2</sup>/年 第2回更新 2,000CFA/km<sup>2</sup>/年。
- ・ 最低義務探鉱：年毎に義務探鉱内容を規定、四半期毎に報告書を鉱山局に提出。
- ・ 譲渡あるいは委譲可能。

#### ② 採掘権(Exploitation permit)

- ・ 首相により交付
- ・ 有効期限 最大30年間、10年単位で延長可。
- ・ 鉱区税 交付時：1,500,000CFA 更新時：2,000,000CFA
- ・ 土地使用料：100,000CFA/km<sup>2</sup>/年

#### (2) 鉱業税制

- ・ 所得税：35%
- ・ 配当税：12.5%から18%
- ・ ロイヤルティ：鉱物製品については3%
- ・ 付加価値税：生産開始後最初の3年間は免除
- ・ 課税猶予：なし
- ・ 政府の持分要求：最大20%
- ・ 利益・資金の自由な換金、海外送金の自由が保証される。
- ・ その他のインセンティブ：石油製品の免税、生産開始から3年間、操業に必要な資機材に対する関税免除等

### 3. 鉱山会社活動状況

#### (1) 生産・開発状況概要

##### ① 稼行鉱山

2006年の金の生産は、前年から15%増の

53t(見込。2005年46t)となった。これは、2005年に生産が開始された Loulo 鉱山が通年操業となったこと及び 2006 年において、新たに Tabakoto 鉱山の生産が第2四半期から開始されたことなどによるものである。新鉱山である Tabakoto 鉱山は、埋蔵量 41.3 千 t、粗鉱生産

量 65 万 t/年、金品位 5.45g/t、金生産 3.4t/年、当初鉱山ライフ 5 年の鉱山となるが、下部鉱床も確認されており、将来的に地下採掘する計画を持つ。

稼行中の 6 つの主要金鉱山の生産状況は以下のとおりである。

鉱山名	生産開始年	金埋蔵量、品位	操業企業	2005 年金生産量 t	2006 年金生産量 t
Sadiola 鉱山	1997 年	188t、2~3g/t	IAMGOLD(カナダ) 38% Anglo Gold(南ア) 38% マリ政府 18% SFI 6%	13.7	15.5
Morila 鉱山	2001 年	160t、約 4g/t	Randgold(南ア) 40% Anglo Gold 40% マリ政府 20%	20.3	16.0
Yatela 鉱山	2001 年	68t、2~3g/t	Anglo Gold 40% IAMGOLD 40% マリ政府 20%	7.7	10.9
Loulo 鉱山	2005 年	80.2t、3.1g/t	Randgold(南ア) 80% マリ政府 20%	2.1	7.5
Kalana 鉱山	2004 年(再開)		Avnel Gold Mining(英) マリ政府	0.46	0.73
Tabakoto 鉱山	2006 年		Nevsan Resources 社(加) 80% マリ政府 20%	—	1.1

## ② 開発待ち鉱山

### 【Segala】

2006 年に生産を開始した Tabakoto 鉱山を操業する Nevsan Resources 社(加)が実施するプロジェクトである。プロジェクトは Tabakoto 鉱山の北方近傍に位置し、鉱床の地表部分の F/S が完了しており、金資源量約 25t(金平均品位 3.36g/t)という結果が出ており、Tabakoto 鉱山の採掘終了後、この鉱床を採掘する計画である。

### 【Syama】

Resolute Mining 社(豪)は、休止中であった同鉱山の F/S を 2005 年 4 月に完了し、2006 年 4 月に同鉱山露天採掘部の再開を正式に決定

し、F/S の結果によれば、採掘鉱石量約 200t、品位 3.36g/t、鉱山ライフ 6.5 年、年間金生産量約 7t の鉱山となる予定であり、開発資本コストは 120 百万 US\$を計画している。

## (2) 探鉱状況概要

マリにおける金の探査は、現在、多数の企業により活発に行われている。主要な企業として、Randgold Resources 社(南ア)、Axmin 社(加)、Resolute 社(豪)、Avnel(英)、Great Quest Metals 社(加)、Estruscan Resources 社(加)、North Atlantic Resources 社(加)、Robex Resources 社(加)などが、南部、西部エリアで探鉱を実施している。

(2007. 5. 31/ロンドン事務所 高橋 健一)